ギリシャ概況（2019 年 4 月号）

１．内政

・16 日　独に対する戦後補償請求をギリシャ政府に求める決議がギリシャ国会にて採択された。

２．外政

・1～5 日　カトゥルガロス外相が訪米し、NATO の創設７０年を祝う記念式典及び NATO 外相理事会に出席した。更に本会合のマージンにて、ニミッツ元 FYROM 名称問題国連事務総長特別顧問及びルート国連コンサルタントと会談した。
・2 日　チプラス首相が北マケドニア訪問し、ザエフ首相及びジャフェリ国会議長と会談した。
・2 日～4 日　クドゥラ観光相が世界旅行産業会議（於：スペイン）に出席した。
・4 日　ラスムセン・デンマーク首相がギリシャを訪問し、チプラス首相と会談した。
・8 日　カトゥルガロス外相がEU外相会合（於：ルクセンブルク）に出席した。
・10 日　カトゥルガロス外相がレバノンを訪問し、ギリシャ・キプロス・レバノン3か国外相会合に出席した。
・11～12 日　カトゥルガロス外相がポーランドを訪問し、「ベルリン・プロセス」外相会合に出席した。更に本会合のマージンにて、ツルナダク・ボスニア・ヘルツェゴビナ外相及びパツォーリ・コソボ外相と会談した。
・12 日　ツァカロトス財務相が訪米し、ラガルド IMF 専務理事と会談した。
・15～16 日　カトゥルガロス外相が訪日し、河野外相及び滝波経済大臣政務官と会談した。
・17 日　カトゥルガロス外相が仏を訪問し、ル・ドリアン欧州・外務大臣及びアメリー・ド・モンシャラン欧州・外務大臣付欧州問題担当長官と会談した。
・25～27 日　チプラス首相が訪中し、第2回「一帯一路」国際協力ハイレベルフォーラムに出席した他、習近平国家主席等と会談した。なお、本訪問にはカトゥルガロス外相が同行した。
・30 日　カトゥルガロス外相がオマーンを訪問し、アブドッラー国外務担当大臣、ミフラジー観光大臣及びスナイディ商工大臣と会談した。

３．移民・難民問題

3 月には陸路でギリシャに到着する移民・難民の数が 1,250 名、島嶼部に到着する者の数が 1,900 名となった。

3 月 31 日現在　ギリシャに滞在する移民・難民は 76,000 名（UNHCR 発表）。

４．経済

（1）経済動向

・1 日　ギリシャ中央銀行が２０１９年のギリシャのＧＤＰ成長率予測を２．３％から１．９％へ下方修正することを発表した。

・5 日　ユーログループ（於：ルーマニア）が開催され、欧州中央銀行やユーロ圏各国の中央銀行が保有するギリシャ国債による償還金を含む９億７千万ユーロのギリシャへの支払いが承認された。

・22 日　日本の格付け会社 R&I がギリシャの国債格付け評価を B から B＋に引き上げ、見通しを「ポジティヴ」とした。

（2） 財政

ギリシャ財務省が 4 月 30 日付で公表した 2019 年 1 月から 3 月の財政統計によると、1 月から 3 月の財政収支は 7 億 6,800 万ユーロの赤字、同期間のプライマリーバランスは 14 億 4,300 万ユーロの黒字となった。同期間の歳入は 119 億 8,600 万ユーロで政府目標を 13 億 3,100 万ユーロ（12.5%増）上回り、歳出は 127 億 5,400 万ユーロと政府目標より 10 億 1,000 万ユーロ低く抑えられた。

（3） 輸出入

ギリシャ統計局の 4 月 5 日付の発表によると、2 月の輸入総額は 43 億 380 万ユーロ（前年同月比 4.0%増）、輸出総額は 26 億 5,040 万ユーロ（前年同月比 9.3%増）となった。

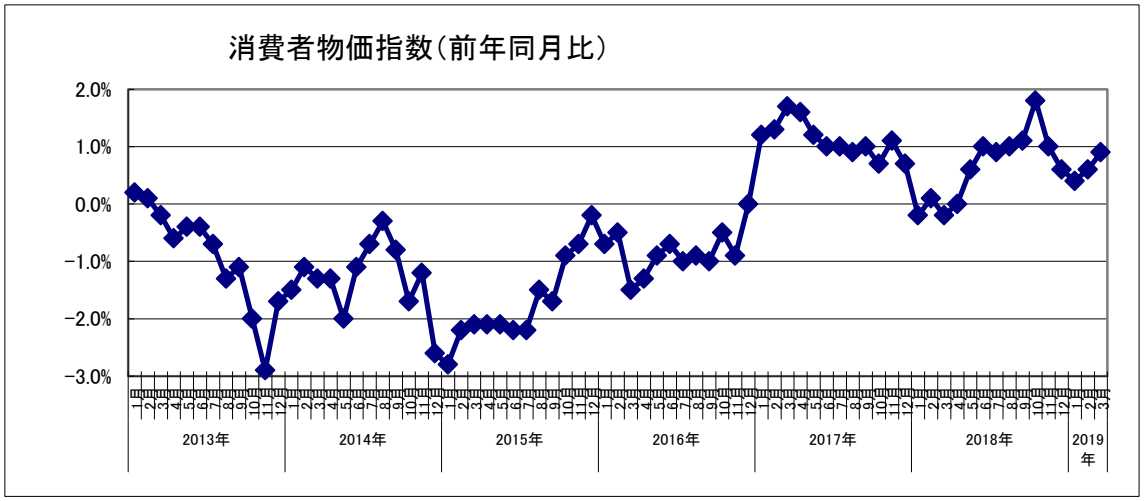
（4） 観光業

ギリシャ観光業協会（SETE）の発表によると、12 月の観光客は 41 万 9,202 人で、前年同月比 23.9%増となった（国内主要空港の観光客到着数（暫定値）ベース）。内訳は、アテネ空港が 27 万 9,787 人（同 20.6%増）で、テサロニキ空港が 13 万 219 人（同 46.7%増）となった。

5. 経済指標

(1) 消費者物価指数

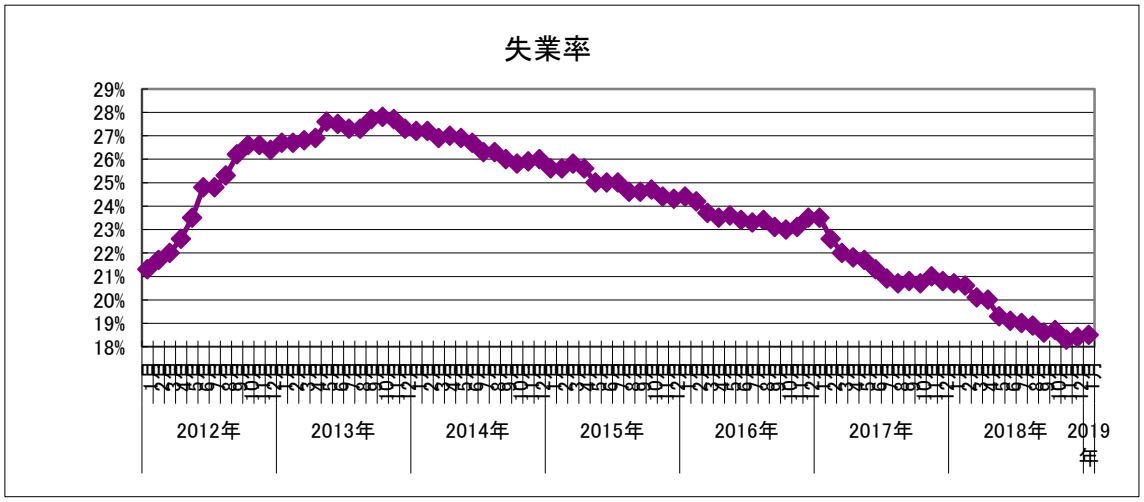
ギリシャ統計局の 4 月 10 日付の発表によると、3 月の消費者物価指数は前年同月比 0.9%増となった。



(出典:ギリシャ統計局)

(2) 失業率

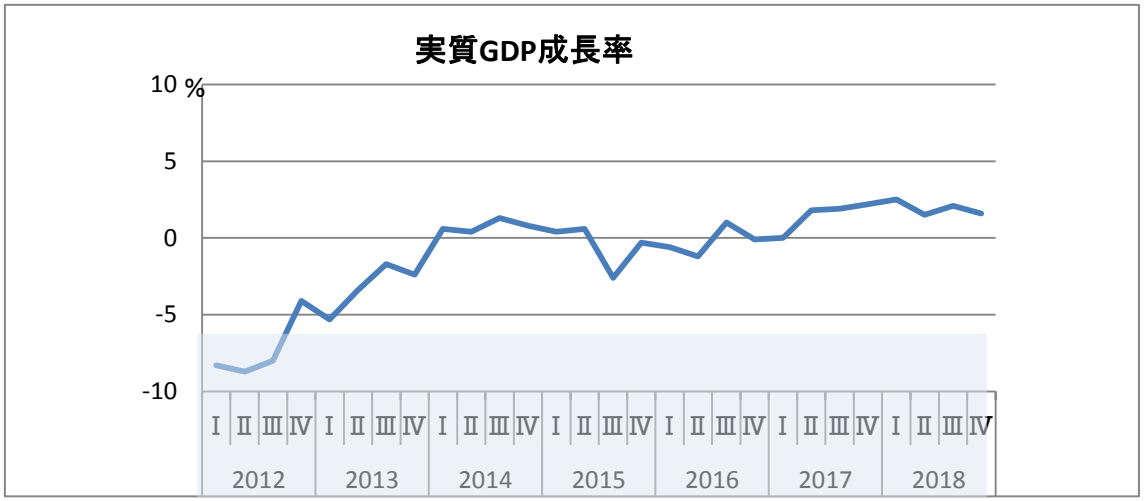
ギリシャ統計局の 4 月 11 日付の発表によると、1 月の失業率は 18.5%となり、前月から 0.1%増加した。



(出典:ギリシャ統計局)

(3) GDP

OECD のデータによると、2018 年第 4 四半期（10 月～12 月）の実質 GDP 成長率は前年同期比プラス 1.6%となった。



（出典：OECD）

※この概況は各種報道・公表資料を基に作成した。

（了）